

授業科目 中枢神経系評価学 II

| | | | | |
|---|--------------------------|--|-----------------------|--------------------------------|
| 【担当教員名】 星 孝 | 対象学年 | 2 | 対象学科 | 理学 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修選択 | 必修 |
| | 単位数 | 1 | 時間数 | 15 |
| 【カリキュラムポリシーとの関連性】 | | | | |
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
| ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| 【概要・一般目標：G10】 中枢神経疾患の病態を理解し、必要な検査項目を列挙、選択できる能力の基礎知識を習得する。また最終講義時には選択した検査項目を理由とともに説明できることを目標とする。 | | | | |
| 【学習目標・行動目標：SBO】 1. 脳循環や auto regulation、座位耐性チェック、離床基準を理解する 2. 脳血管の走行や名称を言える 3. CT上の場所名称を言える 4. 脳の機能局在や、障害される症状を言える 5. 全身管理の判断に必要な評価（意識度、血圧の管理、薬剤、呼吸管理、循環動態管理など）を理解し説明できる。 6. 不随意運動や異常動作の実際を確認し説明できる 7. 正常運動と異常動作の違いを説明できる 8. 脳卒中ケースへの運動負荷の考え方を理解する 9. USN およびプッシャー症候群についての検査表を理解する 10. ケースを観察し、必要な検査項目を理解し、その意義の検討し選択できる。 また選択理由を言葉で明確に説明できる 11. クループワークにおいて積極的に取り組み、授業内容を総動員した検討姿勢を評価する 12. 基礎知識、検討行為や考察の集積の実力が、授業内容を反映した定期試験において評価の対象となる | | | | |
| 回数 | 授業計画・学習の主題 | | SBO 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
| 1 | リスク管理基礎としての脳循環知識 | | 1, 2, 12 | 講義 担当：星 |
| 2 | 画像診断と評価 | | 2, 3, 4, 12 | 講義 担当：星 |
| 3 | 急性期リハビリテーションの展開に必要な評価 | | 5, 12 | 講義 担当：星 |
| 4 | 随意運動のメカニズム | | 6, 7, 12 | 講義 担当：星 |
| 5 | 不随意運動や異常動作のメカニズム | | 6, 7, 12 | 講義 担当：星 |
| 6 | 軽度脳卒中ケースへの姿勢負荷、運動負荷について | | 8, 12 | 講義、担当：星 |
| 7 | USN およびプッシャー症候群 | | 9, 12 | 講義、担当：星 |
| 8 | 中枢神経疾患の評価に対する討議およびグループ学習 | | 10, 11, 12 | 講義、グループ討議 担当：星 |
| 【使用図書】 | | <書名> | <著者名> | <発行所> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | | 理学療法評価学テキスト 病気がみえる Vol.7 脳・神経 | 細田 多穂 医療情報科学研究所(編) | 株式会社 メディックメディア |
| 参考書 | | | | 2010・5,700円＋税 2011・3,800円＋税 |
| その他の資料 | | 必要に応じてプリントを配布します | | |
| 【評価方法】 出席状況、出席態度、期末試験の総合評価とする。 | | 【履修上の留意点】 大学規定出席数に満たない場合は、定期試験の受験を不可とする | | |